

株式会社ワークスタジオ
代表取締役 **原和広氏**

経営者は 365日24時間営業。 環境領域PANECCO®で 勝負をかける。

什器じゅうきのデザインと製作で創業したワークスタジオ。

時代の先を読み、什器からiPadスタンド、

そして、いまはサステイナブル社会の実現へ寄与する新素材へ。

“新しい”を生み出す原社長には、ブレない哲学があった。

好きな製品だから、
苦勞も乗り越えられる

——「勇気ある経営大賞」*の特別賞に

御社のPANECCO®が選ばれました

ね。おめでとうございます。

原社長 これからPANECCO®に全
力を注いでいこうと考えていたタイ

ミングでの受賞でしたから、非常に
嬉しかったですね。

——PANECCO®とは、どのような商
品が教えてください。

原社長 簡単にいうと、衣類の廃棄
物をデザイン力とリサイクルのアイ
デアを生かしてボードにした新素材
です。

世界では毎年9200万トンもの
衣類廃棄物が出ており、途上国に送
られごみの山ができています。また、
その多くが焼却処分されるため、大
量の温室効果ガス排出にもつながっ
ているのです。

勇気ある経営大賞では、PANECCO®
が衣類をリサイクルした、循環型社
会の構築やサステナビリティ、SD
Gsに貢献できるボードであること、
また、当社が新たにエコ事業に飛び
込んだ点を評価していただきました。
——新たな事業に参入するのは、大変
な苦勞があったのでは？

原社長 予想していたより、何倍も
の苦勞がありましたよ。僕がファッ
ションマニアで、衣類に対する思い
が強いから続けられるだけで……。

まず何よりも、開発には信じられ
ない金額の投資が必要。「よく7人の
会社で、PANECCO®をつくれまし
たね」と言っていたんですが、本
当にさらばし銀行の融資がなかつた
らできていません。

また、この世に存在していないも
のの開発ですから、一緒につくつ
てくれる会社がない。ボードを製
作している会社をウェブで探して、
100件電話しても100件とも「で
きない」と言われて、それでも踏ん
張って電話をかけ続けて101件目
で「話を聞きましょうか？」と言っ
てもらえるような確率ですよ。

例えば、これがプラスチックリサイ
クルだったら、すぐあきらめていまし
た。僕はプラスチックにあまり興味が
ありませんから。でも、PANECCO®
の原料は自分が大好きな洋服、布製
品。好きだから面白くて、苦勞も乗

*勇気ある経営大賞：東京商工会議所が、過去に拘泥することなく高い障壁に挑戦し、理
想の追求を行うなど、“勇気ある挑戦”をしている中小企業またはグループを顕彰する制度。

り越えられる。

—— PANECCO®は、どのように売上に
つなげるのですか？

原社長 開発当初は、ボードの状態
で購入してもらってお客さま自身に
自由に加工してもらおうパターンと、
当社でPANECCO®を椅子やテーブ
ル、本棚などの家具の形にした商品
を販売するパターンの二通りが売上
になっていました。

しかし、いま一番売上が多いのは、
僕らが自己循環と呼んでいるもので
す。例えば、ある企業がユニフォー
ムを変えとします。これまでなら、
ただ捨てればよかったのですが、持
続可能な社会を目指す動きが強まっ
て、それがやりにくくなっています。

そこでワークスタジオがユニフォー
ムからPANECCO®をつくり、さら
にそのボードで何かをつくってお返し
する。企業にとっては、ユニフォーム
を再資源化して活用しているブラン
ディングにつながるわけです。

東横インさまは制服を変えるとき
に、PANECCO®にリサイクルして

時計をつくりました。不要だった制
服が時計に形を変えて、客室やロビー
に置いてあります。

**コア技術を派生させ、
新事業を生み出す**

——総売上に對して、PANECCO®は
どのくらいを占めていますか？

原社長 ワークスタジオは什器、テ
クノロジー、環境という三つの領域
の仕事を並行して進めていて、比率
は4対3対3。PANECCO®は環境
領域ですから、いまは3割ですね。

什器領域が多いのは、当社が1998
年に携帯電話やPHSを家電量販店
で展示する什器の製作で創業したか
らです。スタートは、什器領域が10
割でした。

そして、iPadが発売され、
2011年から受付で使えるスタン
ドをつくり始めたのです。これが大
ヒットしてこれまで1万台以上納品
しています。これを当社では、テク
ノロジー領域と呼んでいます。

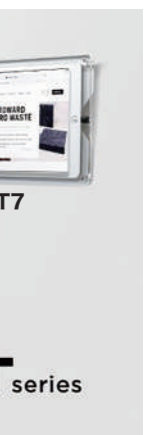
iPadスタンドをつくるきつ

少ないだろうから、そうでないこと
はすぐ推察できました。そこで、さ
らに調べていくと、どうやらオフイ
スやお店の無人受付に置いてある
iPadが盗まれないようなスタン
ドを必要としている人が多いことが
わかったのです。

我々はガラケーの時
代から什器をつくって
おり、盗難防止のノウ
ハウをもっていました
から、デザイン力とこ
れまでのノウハウを
駆使して洗練された
iPadスタンドを開
発しました。

——最後の環境領域が
PANECCO®ですね？

原社長 そうですね。
2019年から始め
て、やっと売上の3割
を占めるまで成長しま
した。開発のきつかけ
はあるお客さまから、
デニムの廃材が20%含



iPad スタンド「T シリーズ」：洗練されたデザイ
ンだけでなく、優れた盗難防止機能をもっている。



PANECCO®：「すてられる服にあらたな価値を」
をコンセプトにつくった繊維リサイクルボード。



PANECCO®が2024年度「勇気あ
る経営大賞」の特別賞を受賞。

けとなったのは、ある時期からワーク
スタジオのホームページに「iPad
盗難防止」と検索して訪問するユー
ザーが増えてきたことです。

何を求めて「iPad 盗難防止」
と検索しているのか分析すると、ま
ず、家電量販店などの店頭でサイズ
の大きいiPadが盗まれることは

まれた混抄紙で什器をつくってほし
いと依頼があったことです。

そのとき、衣類の廃材が入った紙
をボードにして什器をつくるなら、
廃材そのものを直接ボードにすれば
いいと閃きました。

——iPadスタンドやPANECCO®
など、新商品を生み出し、一つの事業
にまで育てる秘訣は？

原社長 テクノロジー領域も環境領
域も、什器の知識から派生してでき
ているのです。iPadスタンドは
金属とアクリルできていますが、
材料の供給からデザイン、設計まで
什器領域の知識が役立っています。
環境領域にしても廃棄衣類をボード
にする発想も技術も、全部什器の知
識から派生したものです。

ですから、突拍子もない商品をつ
くっているわけではなくて、本業の
コア技術から派生させることが秘訣
の一つかなと思います。
——PANECCO®やiPadスタン
ド、什器製作と、領域の異なる商品を
どのように販売しているのですか？



ガラケー時代から、商品を引き立てる什器のデザインをしてきた。

新商品を 生み出す秘訣は、 コア技術からの派生

プロのやり方ではないですが、自分たちで考えて、自分たちでやり続ける。社長が日曜日にやればタダです。やりながらどうすれば効果が出るかわかってきます。本当に継続は大事ですね。

——HPが営業社員代わりですね？

原社長 これから10年20年先の生産年齢人口は極端に減ると思うのです。そうになると、中小企業が優秀な人材を採用して、定着させるのは難しいのではないのでしょうか。

ならば、最新技術を活用してできるだけ少人数で回せるビジネスモデルを考える。もしくは、海外の労働者を受け入れる仕組みをつくらないと生き残れないと僕は思います。

外国人労働者でいうと、最近、「環境に寄与するPANECO®をつくりたい。働かせてほしい」と海外の学生から連絡がありました。それも2人です。ですから、グローバルで評価される事業をしてい

自分たちで
考えて、
自分たちで
やり続ける



れば、海外から応募が増える時代なのかもしれません。

——PANECO®は海外でも知られているのですか？

原社長 PANECO®は、海外から

の問い合わせのほうが多いのです。

ですから、海外で新会社を立ち上げて、環境領域の事業を成長させていく道筋をいま描いています。

——原社長からは力強いエネルギーを感じます。原社長が考える、経営者に必要な能力は何でしょうか？

原社長 僕が言えるのは、誰よりもたくさん働くこと。それしかないですよ。やはり経営者は365日24時間営業。社員や取引先にそれはリクエストできない。自分でやるしかない。能力がある人は必要ないかもしれません。必要なのは人の倍働いて能力のある人と同じ、3倍働いてやっと1.5倍くらいだと思います。

働き方改革が叫ばれています。経営者は

関係ありません。

もう一つが、誰よりもいいアイデアを出し続けるということです。この二つしか思い当たらないですね。

そのためには、情報収集が大事。ネットばかり見ても何のプラスにもなりませんよ。

日本に限らずいろいろな場所に行つて、英語ができなくても一次情報をどんどん探る。本を読む。そういうことを習慣にしていないと取り残されてしまいます。

株式会社ワークスタジオ

【本社】東京都新宿区四谷4-11-2
フィル・パーク四谷四丁目 2F

【設立】1998年3月

【従業員数】7名

【事業内容】

環境領域：サステナブルな環境配慮型の素材、建材、内装材の研究・開発・製造・販売(PANECO®)

テクノロジー領域：iPad、タブレット端末のスタンドの開発・デザイン・設計・製作

什器領域：環境に配慮した什器のデザイン・設計・製作と回収・再生

きらぼし銀行 新宿支店会員